

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

# 「東京大壁画」 本格始動にともない ロゴマーク・キービジュアルを公開

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アートカウンシル東京が主催する“Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13”のひとつであり、株式会社ドリルが企画制作を手がける「東京大壁画」は、本日、ロゴマーク及びキービジュアルを発表します。



ロゴマーク・キービジュアル



丸ビル・新丸ビル制作風景

「東京大壁画」は、“Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13”の最後に発表された企画であり、2021年夏の東京・丸の内において、アーティスト横尾忠則さん、横尾美美さんを起用し、丸の内ビルディング（以下、丸ビル）・新丸の内ビルディング（以下、新丸ビル）の壁面を一对のキャンパスに見立て総面積7,000㎡以上の巨大壁画アート2作品を展示するものです。

企画のコンセプトとなるのは「宇宙 COSMO POWER」。宇宙生命の大きなうねり＝エネルギーを表現すべく、丸ビルの壁面（総面積3,371㎡）には“火 (ignis)”をテーマとした横尾美美さんの作品が、新丸ビルの壁面（総面積4,381㎡）には“水 (aqua)”をテーマとした横尾忠則さんの作品が展示されます。展示はお二人が手掛けた巨大な絵柄をそれぞれ100枚以上に分割して1枚あたり約3㎡のシート化を行い、そのシートを1枚ずつ丸ビル・新丸ビルのガラス壁面に貼り付けるかたちで行われます。5月20日段階で、全体の約半分までシートの貼り付けが進行。これから7月17日（土）までの約2ヶ月をかけて、全353シート（丸ビル113シート、新丸ビル240シート）の貼り付けを完了させます。

今回発表するロゴマークは、東京駅の正面に立つ丸ビル・新丸ビルの巨大なガラス・ウォールを象徴的かつダイナミックにデザインし、掲げられた“火 (ignis)”と“水 (aqua)”をテーマとした二つの作品から生じるCOSMO

POWERを表現しました。キービジュアルは二棟のビルをモチーフにしたロゴマークを中心に据え、掲出される作品の一部と共に構成し、巨大壁画アートのスケール感を表現しつつ、企画コンセプトに込められた、世界を強く鼓舞するメッセージを伝えます。

今回の作品について、横尾忠則さんからは「(今回の企画への参画が決定した時に) まず、この支持体とどう対峙するかに、しばらく時間がかかるだろうと思った。テーマである火と水は相対的なものとして、ここでは二つの要素を一つの要素として考えた。まず現場に立って身体的に実感してもらいたい。」、横尾美美さんからは「東京大壁画は、アートという別次元へと誘(いざな)う入口を父と私の作品で創りあげているように感じた。"ignis(炎)"の中には、隠し画のようにさまざまな動物や天使、食べ物、花など平和を象徴するようなものが描かれているので、探しながら楽しんで観て頂きスケールの大きさを体感いただけたら嬉しい。コロナ禍にあっては、焼き尽くす炎が全てを新しく生まれ変わらせ、炎の聖さ(清さ)、優しさで心と身体が癒され、炎の強さ、情熱で、光(希望)へと導かれるような世界が感受できるような作品に成れば。」とのコメントをお寄せいただきました。

「東京大壁画」の展示期間は2021年7月17日(土)から、9月5日(日)までの50日間、国内はもとより海外でも例のない世界最大級のパブリックアートの完成をご期待ください。

### <展示される作品の詳細について>

#### ① 作品のテーマ～“火(ignis)”と“水(aqua)”

丸ビル・新丸ビルの二つの巨大なガラス・ウォールに作品を展開するにあたり、テーマにおいても「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念を」ということで、横尾忠則氏、横尾美美氏を交えてミーティングを進めるうち、「火と水」、しかも卑近な状況にとどまらない、宇宙的な元素概念として捉えることのできる、“火(ignis)”と、“水(aqua)”に絞り込まれました。火は水によって消火されるが、水もまた火によって気化するという相関関係にあります。また、火は揺れ続け、螺旋状に上昇する一方で、水は水平にとどまり、垂直に落下するという、運動形態も極めて異種の状態を示します。こうした二つの存在と運動は、宇宙はもちろん、人類、私たち一人一人が内包する運動であり、エネルギーでもあるという思想に立ち、人類から、宇宙までに通底する「コスモパワー COSMO POWER」＝「生命の循環運動」と捉えました。



横尾美美氏作品 (一部)  
テーマ “火(ignis)”



横尾忠則氏作品 (一部)  
テーマ “水(aqua)”

#### ② 作品の表現形式～“部分と全体”

表現形式においても、「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念」のもとに、作品制作ができないものかと考えました。テーマは、“火(ignis)”と、“水(aqua)”ですが、単にそれぞれが火や水を描くのではなく、モンタージュ、あるいはコラージュという手法を用い、作品の部分部分が、単純な火や水ではないものによって構成されています。「部分と全体」双方が意味を持って存在することで、細部においては異化異質でありながら、総体としては火や水の表現になるという構造です。原質(オリジン)と、多様性(バリエーション)の関係を表すことにもなります。これは、人類、地球、宇宙をつなぐ大きな様相でもあります。“火(ignis)”は横尾美美氏、“水(aqua)”は横尾忠則氏が制作いたします。

#### <本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ドリル PR担当 村木みちる (090-9132-4499)  
TEL : 03-5428-8771、FAX: 03-5428-8772 MAIL : superwall@drill-inc.jp

## 【参考資料】

### ■アーティストプロフィール



#### 横尾忠則氏

1936年兵庫県生まれ。美術家。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、など各国のビエンナーレに出品し、パリのカルティエ財団現代美術館など各国の美術館で個展を開催。15年高松宮殿下記念世界文化賞、令和2年度東京都名誉都民顕彰。7月17日より東京都現代美術館での大規模な個展が開催される。



#### 横尾美美氏

画家。1994年「Tadanori & MimiYOKOO」展で展覧会デビュー。1995年個展開催から、東京を中心に、全国各地で開催。2000年 PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE MILLENNIUM、Spring Summer2000 を担当。最近では me ISSEY MIYAKE “MIMI YOKOO”の第一弾(2017年)から第三弾(2020年)までコラボレーションを展開。

### ■実施概要

イベント名：東京大壁画

実施期間：2021年7月17日（土）～2021年9月5日（日）

実施場所：丸ビル（東京都千代田区丸の内2丁目4-1）、新丸ビル（東京都千代田区丸の内1丁目5-1）

アクセス：JR東京駅丸の内南口より徒歩1分、東京メトロ丸ノ内線東京駅より直結

公式WEB：<http://www.tokyodaihekiga.jp>

主催：東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



企画運営：株式会社ドリル

後援：三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社（会場協力）

協力：株式会社アタマトテ、株式会社アマナ、株式会社アンテナ、株式会社Odds Design

※プログラム内容は変更になる可能性がございます。

### 株式会社ドリルについて

クライアントの課題を最も劇的な方法で解決するクリエイティブ&コミュニケーションエージェンシー。最も劇的な方法とは、世の中に新しい価値を生み出す革新的なやり方そのものを意味しています。戦略、アド、プロモーション、コンテンツ、プロダクト、デジタル、イベント、PRとあらゆるソリューションを提供します。

社名：株式会社ドリル（Drill Inc.）

設立：2004年12月 代表取締役 CEO：江成 修

所在地：〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町19-5

HP：<http://www.drill-inc.jp/>

# Drill

#### 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

#### 「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp/>